

「あいうえお」

校長 上戸 基夫

聖ステパノ学園元校長の小川正夫先生の著書を読み返していると、その多岐に渡る知識と見聞の広さに頭が下がると共に、その歩みの深さに、あらためて教えられる思いがしました。

そんななか、小川先生が卒業生に贈った言葉の中に「かきくけこ」を大切にしてくださいと記されている文章がありました。

「か」…いつも感謝する心をわすれない。

「き」…「希望」を失わない事。

「く」…「工夫」をすることを忘れずに。

「け」…自分で「健康」に気をつけること。

「こ」…諦めない「向上心」。

シンプルながら、とても心に残る「かきくけこ」だと読んでいて思わずうなずきとまりませんでした。

そこで、ふつつつと私自身も卒業していく児童生徒に送る言葉は考えられないかと思ひ、頭をフル回転させてみました。散々なやんだあげく、私は「あいうえお」で卒業していく子ども達へ言葉を送りたいと思います。

「あ」…「あ」りがとうの言葉を忘れずに。

学園でも日々大切にしてきた「ありがとう」。何かをしてもらったら、まず「ありがとう」をつたえよう。誰かがあなたのために使ってくれた「時間」と「心」に、迷わず「ありがと

う」と言える人でいてください。

「い」…「祈り」の「い」。どんな時も、祈ることを忘れないでください。友のこと、家族のこと、時には出会ったことのない遠くの人々のこと。そして大切な自分自身のこと。困った時、悩んだ時、心配する時。最初にできる事は「祈る」ことです。

「う」…「うなずく」の「う」。このうなずくは「了解した」「納得した」「同意した」のうなずきではありません。誰かが話してきたら、すぐに答えを出さなくていい。まずは静かにうなずくこと。それは相手を受け入れたうなずきです。相手を自分の中にしっかりと受け止めることで、相手は安心し、話を進め深めることができるのです。

「え」…「笑顔」の「え」。笑顔は、人を安心させる力、幸せにする力があります。コミュニケーションも円滑にしてくれます。それだけではなく、自分自身にも多くの良い効果をもたらしてくれます。どんな時でも笑顔を大切にしたいと思ひます。でも、時には笑えない日だってあります。辛くてたまらなく、笑顔を忘れてしまう時もあるでしょう。そんな時があってもいいのです。焦らず、いつかまた顔を上げ、笑顔になれる日が来ることを、祈っています。

「お」…「お願い」の「お」。現代社会は何でも「自己判断」や「自己責任」と自分一人で生きていかななくてはいけない風潮が強くなっている気がします。「自立」とは「誰にも頼ら

ないこと」だと思われがちですが、本当の「自立」は困った時、誰かに勇気をもって「お願いできる」ことだと思います。困った時に何もできなくなってしまうのは、そこからもう動くことができません。ですが、「お願いします」と一言口にできる勇気があれば、状況は大きく変化します。

課題や困難に直面した際、一人で抱え込まずに周囲へ積極的に助けや援助を求め、共に行動し解決する行動・スキルを「ヘルプシーキング」というそうです。私は、皆さんにそれができる「勇気」を持ってもらいたいと思っています。

聖ステパノ学園での生活は、皆さんの中に多くの種を蒔いています。その種は、すぐに芽を出すものばかりではありません。けれども、皆さん一人ひとりの中に、確かに蒔かれています。

学園を卒業することは、皆さんにとっては小さな一歩かもしれません。ですが、その一歩が一人ひとりの大切な「人生」という名の道を作り上げていきます。卒業は終わりではなく、新しい始まりです。

皆さんの歩みの先に、この学園で蒔かれた種が、いつか確かな実りとなることを心から願っています。一人ひとりの小さな歩みに、万感の思いを込めて、心から祝福と拍手を送りたいと思います。

「知る」から「わかる」に

小6担任 澤邊 嵩介

4月から担任を受け持った小6のクラス。初めて担任として関わるクラスだったので、最初は好きな教科や趣味などを聞いて子ども達を「知る」ところから入っていました。好きな授業や休み時間のあそび、今ハマっている趣味や好きなアーティストなど…教えてもらう中で、他己紹介のようにクラスの友達のことを紹介する子どももいました。このクラスの人たちは、仲が良くお互いのことがよく分かっているのだな、と感じたのが第一印象でした。

そんな中で授業や給食、遠足や音楽会などの行事、修学旅行といった3日間一緒に過ごす時間を通して、自分の中の実感が子ども達に「知っている」「わかる」に少しずつ変わっていききました。そうした中で、小6の子ども達には色々な事を自分たちで意識して取り組めるように声掛けしていきま



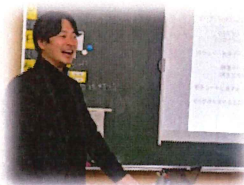
得意な事や好きな事を任せることもありましたが、時には苦手な事やあまりやったことのない事を任せることもありました。例えばクリスマスや聖劇の時に学内のみで行う子どもたちの祝会の中には、人前に出ることが苦手と「知っていた」子どもに、あえて司会として皆の前に出る役目を与えました。その子が任された役目に対して真面目に取り組む子というのはわかっていたのですが、こちらが期待した以上に真摯に取り組んでくれました。逆に、皆の前に立ってリーダーとして引張ることが得意な子どもには、リーダーではなく全体のサポート役に回ってもらうという場面もありました。様子を見てみると、リーダーとして進めるときとは違う立ち回り方に悩みながらもよく励んでくれました。

あえて苦手なことを子どもにも取り組ませるという事は、成長してほしいという期待だけではなく子どもが「分かっていた」ということが大きいと感じます。あの子にはこれをやり切る力がついてきたな、あの子はもう少したつてからやってみようと思った方がいいかな…こういった事を日々考えていました。ただ「知る」と、「わかる」ことには大きな違いがあります。「知る」という事は本を



読んだり、話を聞いたり、授業で新しいことを学んだりして、情報を頭の中に取り入れる行為です。しかしこれらはあくまで表面的な所で、その意味や背景を自分の中で整理できていない段階です。これらの情報が、その先の関わりや経験を通して、「わかる」に変わっていくといわれています。点と点だった知識が線でつながり、線と線が面を作り…同じことについても点でとらえるのか、線でとらえるのか、面でとらえるのかで見えかたが変わってきます。この1年間の関わりで子どもたちのことが少しずつわかってきたように感じます。

そういったところで、あつという間に卒業の時期がやってきました。あつと言う間の1年間、さみしい気持ちと同時にこれから色々な体験をして、成功や失敗を重ねて活躍もしていく姿も楽しみます。卒業生の皆にも、これから色々なことを学び、色々なことがわかる人になってほしいと思います。ご卒業おめでとうございます。



『苗床』

中3担任 露崎 志苑

今年度、一番初めのステパノだよりは「新年度の抱負」というテーマでしたが、私は「カセツガツヨイ！」というタイトルで、文章を書きました。企業で

コーチングをしていた頃、相手への強い先入観（仮説）を持ちすぎていると、当時のメンターから何度も指摘されました。三年間持ち上がったこの学年と歩む最後の一年、私は改めて、生徒を「こういう人だ」と決めつけずに向き合おうと心に決めてスタートしました。

しかし、そんな私のささやかな決意とは裏腹に、三年生は、先入観を持つ間もないほどの勢いで成長していきました。これまで見てきた姿とはまったく違う姿を、次々と見せてくれました。

ついていくだけだった遠足。自分のことで精いっぱいだったサマーキャンプ。声を出すことさえ難しかった応援。指示通りこなすだけだったクリ



スマス祝会での劇。それが今では、後輩を導き、周囲を見渡し、想いを持った姿へと変わりました。そんな成長をそばで見、共に過ごすことができたことは担任として本当に幸せなことでした。

その成長を支えたものは何だったのか。

それは「安心できる環境」だったのだと思います。失敗しても笑う人がいない。困難なことがあっても助けてくれる人が

いる。気にかけてくれる人がいる。まっすぐに応援してくれる人がいる。クラスのみんなが、そしてステパノ学園が醸し出すこの雰囲気、一人ひとりの成長の土台になっていました。

しかし、その安心は、決して無風の温室ではありませんでした。衝突もあり、不和もあり、それぞれが抱える葛藤もありました。それでも崩れなかったのは、安心があったからこそ、挑戦し、ぶつかり、また立ち上がることでできたからなのだと思います。守られながらも、適度に負荷を受けながら、三年間は確かに進んできました。

共に過ごした三年間を振り返ったときに、大学の恩師から教わったこんな話を思い出します。「少人数での学びの場である



“seminar (セミナー)”の語源は、ラテン語で「苗床(なえどこ)」を意味する言葉だよ。苗床とは、種が芽を出し、やがて自然の中で耐えられるようになるまで育つ場所。日の光を受け、水を与えられ、ときに剪定され、少し風に当たりながら、根を強くしていく場所です。苗床は、誰か一人が完成させるものではありません。土を整える働きがあり、そこに植えられた苗自身が互いに支え合いながら根を張っていきます。

この三年間は、まさにそのような時間だったのではないでしょう。安心という土壌の中で、ときに負荷を受けながら、互いに支え合い、それぞれが確かに成長していききました。その苗床づくりに、担任である私もわずかでも力になれていたなら、これ以上の喜びはありません。すべてのことに働いて私たちが成長させてくださった神様に感謝し、三年生がそれぞれの新しい苗床で、さらに根を張っていくことを祈っています。



【クリスマス祝会】

今年は小学生が聖劇を行いました。聖劇の練習に入る前に、みんなが聖劇を演じる意味を考えました。いろいろな答えが返ってきましたが、意味を考えることでそれぞれが聖劇を大切なものと捉えられるようになったと思います。

十二月十三日にクリスマス祝会がありました。約一週間も練習したので、自信満々でした。

しかし、ぼくは前日に友達の家で遊んでいて、外でキックボードをする時に転倒し、骨折してしまいました。どうしても劇に出たかったので、体が動く範囲で精一杯がんばりました。

ぼくの中では、出来ばえは百点中二百点でした。なぜなら、骨折した痛みをがまんしながらも、セリフを間違えなかったからです。

ぼくは早退し、片付けができませんでしたが、六年生として最高の劇を作れたと思います。

小6 Y・H

聖歌たいのみんなの声がよかったですとおもいました。かいばおけにねむるがすきでした。家族にほめてもらえてうれしかったです。

みんなですてきなハーモニーをかなでられました。

小3 O・N

十二月十三日(土)、海に見えるホールでクリスマスしゅく会のげきを学校のみんなでやりました。ぼくは、学者のやくをしました。み

んなとたくさん練習をして、セリフやえんぎをおぼえました。当日は、たくさんお客様がいて、どきどきしました。ゆう気を出して大きな声でセリフを言いました。上手にできました。

みんなでげきをがんばって、楽しかったです。次は、ヨセフがやりたいです。 小3 T・S

【マラソン大会】

寒空の中、マラソン大会が行われました。当日は、気温が低かったにも関わらず、たくさんの保護者の方にお越し頂けました。たくさん応援を追い風にして、一生懸命走りました。

ぼくは、お父さんと一緒に走る練習をした。学校でも練習をした。ぼくは、マラソン大会でいいペースで走りたいと思った。「ピー」という音があった。ぼくは走った。「いい天気だな」と思いながら走った。河野先生が「がんばれ」と言ってくれたので、ぼくは一生けんめい走った。その結果、ぼくは走り切ることができた。

帰る時には、ぼくはおながすいていた。たくさん走ってつかれた。 小5 M・M

マラソン大会でみんなとは違ったよ。みんながんばれていって来てありがとう。さわべ先生、いっしょにはしって来てありがとう。

小5 K・I

マラソン大会で、走りました。足と手とはながさむくて、こおりになりそうでした。二周目に、つかれすぎて、ころびそうでした。さむすぎて、いきができませんでした。すぐくくるし

かったです。わきばらが、すぐくいたかったです。ゴールする前に、ももえちゃんのせなが見えませんでした。本当は二いになりましたけど、自分ががんばったから、三いでじゅう分です。

小2 S・M

一月二十八日水曜日に大いそ運動公園へ行きました。

クラスのお友だちと一緒に走りました。つかれて少し止まってしまいましたが、ゴールまでがんばりました。

みんなと走れて楽しかったし、ゴールできてうれしかったです。 小3 I・T

一月二十八日水曜日、大磯運動公園でマラソン大会の本番をしました。学校でマラソンの練習をたくさんしてきたので、本番は自信をもって走れました。当日は少し寒かったけど日なたで走ったら温かくなりました。

来年はタイムを早くしたいと思います。

小3 M・K

今日はクリスマス祝会がありました。自分はずいぶん役をやらせてもらいました。すごく大変でした。歌、セリフ、ダンスをやる役だったので、毎日が楽しかったけど、つらい時もありました。だけど、イメトレをすると止まらなくなりました。良かったです。あと、ハンドベルの助っ人もやっていたので、すごく大変でした。だけど、本番になるとあつという間で、もう終わっちゃったと悲しくなりました。ハンドベルも間違えて悲しくなりました。劇は間違えなかったけど、緊張し過ぎて頭がいたくなってしまうました。だけど、色々な人の感想を聞くと、感動したなど、うれしい言葉を受けて良かったです。毎日がすごく楽しかったです。ありがとうございます。



中2 F・K

今日は5年間いたステパノで最後のクリスマス祝会が終わりました。昨日ミスしたところや直していききたいことを自分なりに考えて、台本に書いてみんなの出番や、やることを再度確認しました。自分ができる最大限の準備をして挑み、過去一番良いクリスマス祝会だと断言できるくらい大成功をしたので、今まで頑張ってきたものすごく良かったなど再度思いました。自分は、この一カ月にテストや受験勉強があったりと大分忙しい日々を過ごしていたので、眠かったり疲れたりしていたけれど、最後の祝会だから楽しく、みんなの思い出に残るようにし

たかったので頑張ってきました。ミスも実はあったけど、もう自分は完璧で良いと思っています。すごく良い祝会ができたので、みんなの思い出になったと思います。

中3 K・K

年が明けて、百人一首大会がありました

今日は、百人一首大会でした。いままでなるだけたくさん国語の便覧を見ていましたが、なかなか覚えられませんでした。けれど、前半11枚、後半8枚とそこそこ取れました。来年はもっともつと札が取れるようにがんばります。

中1 I・M

今日は百人一首大会でした。前半は3枚取れて。後半は5枚取れました。合計が8枚取ることができました。覚えてきた成果を出すことができ、終わった後は達成感でいっぱいでした。来年は10枚取れることを目標にしたいです。

中1 T・T

今日は百人一首大会がありました。前半は10枚で、後半は6枚取れました。ちなみに僕はこの3年間で1番上のチームに入れました。



「ついにここまでできたな」とうれしく思いました。すごく強い人やライバルがいて、白熱した戦いになりました。この3年間で覚えたり、練習して本番にのぞ

んだので、先輩としての実力と意地を見せられました。楽しく百人一首ができました。

中3 M・M

冷たい北風が吹く中、マラソン大会頑張りました

今日はマラソン大会当日でした。走りにはすごい自信があったんですけど、目標タイム11分を目指せるか最初は不安でした。でも、走ってみてタイムを見たら、11分53秒で自己ベストでした。うれしかったです。でも、先生にはまだまだだと言われてしまったので、来年に向けて走り込みをしていきたいと思えます。絶対にライバルHにも勝つし、S君のタイムも越したいと思えます。

中2 H・R

今日、最後のマラソン大会がありました。今日は陸上部に入り、練習を積み重ね、目標を立て、本番に臨むことが出来ました。



今日に向けて目標や作戦を練り、そして今年初、女子1位になりました。私は今、嬉しい気持ちと少し申し訳ない気持ちも正直ありました。しかし、タイムも試走の時よりも1分縮まりました。今までで今年一杯やり切ったと感じました。3年間の行事はもう少ないけれど、これからの学校生活も楽しみます。今日1日本当にありがとうございます。

中3 H・R

「小学校」卒業を迎え、ステパノ学園への想い、将来の夢などを綴ってもらいました。

この6年間担当してくれた先生方、保護者の皆様、学校生活を見守ってくれてありがとうございます。中学校生活でもよろしくお願ひします。

小6 I・R

私がステパノ学園で印象に残ったのは小6でやったクリスマス祝会です。マリア役をいろいろな先生方に演技指導してもらって感謝しています。今までありがとうございます。

小6 U・A



僕のステパノ学園の一番の思い出は、2学期にあつたステパノまつりです。たくさん思い出ができました。これからもよろしくおねがいします。

小6 K・M

ステパノ学園の給食はたくさん先生のと一緒に食事ができます。いつも楽しいことばかりでした。ありがとうございます。中学に行っても楽しくがんばります。

小6 S・K

私は自分たちの学年の友達だけでなく、他学年の友達にも優しく接することができました。将来は仲間と一緒に働ける職業につきたいです。中学校も楽しくがんばります。

小6 S・M

ステパノ学園で経験したことは、動物とふれあったり、まつりをしたりして楽しかったです。中学校でも何か新しいことをしたいです。

小6 T・Y

僕がステパノ学園で一番印象に残った行事は、小6で行ったステパノまつりです。6年間ありがとうございました。たくさん思い出ができました。卒業しても頑張ります。

小6 N・K



このクラスはみんな優しく親しみやすいクラスでした。自分の人生の中でもとても良い小学校生活を送れたと思います。先生、保護者の方、中学に行っても頑張ります。

小6 H・G

ステパノ学園の先生方、保護者の皆様へ。6年間私たちを見守ってください、ありがとうございます。中学に行っても頑張ります。

小6 Y・H

ステパノ学園は入学した時から温かく迎えてくれて、今でも変わらず温かい雰囲気です。安心できる学園だと思いました。大変お世話になりました。

小6 W・S

ステパノ学園の先生方は、私をいつもやさしくはげましてくださいました。うれしかったです。6年間ありがとうございました。

小6 N・K

私の将来の夢はプレッツェル屋です。なぜかというと、パウツェルというポケモンが大好きだからです。難しいと思いますけど、近所さんに名前を知られるぐらいになりたいです。皆さん、ありがとうございます。

小6 Y・S



「中学校」卒業を控えた中学3年生たちにステパノ学園への思いを綴ってもらいました。

私は小学校からここで九年間を過ごし、良き友達を得て、進むべき指針を作る事ができました。私を支援してくれた人たちに感謝しています。



中3 I・N

私の一番の思い出は、運動会です。私は中三になってはじめて学校の旗を持たせてもらいました。信じて下さってありがとうございます。

中3 K・T

自分はステパノ学園で社会性や自己判断など、ここでしか学べないことを沢山学んで自分のものにしてきました。この学校で学んだことをさらに成長させていきます。

中3 K・K

ステパノ学園で得られたことがたくさんあって、行事などを通して自分に自信がつくようになり、友達関係も良くなりました。

中3 K・R



私は、この三年間で人との関わりで悩むことがありました。そんな時、たくさんの先生に話を聞いてもらいました。その中でも一番露崎先生に話を聞いてもらいました。高校に行っても

先生が言ってくれた言葉を思い出して頑張っていきます。三年間ありがとうございます。

中3 G・T

ステパノに入って成長したと思うことがすごく増えました。人前に出て話したり、人が嫌がるようなことも手をあげて立候補したりたくさん成長した三年間でした。

中3 S・T

三年前に小学校を卒業したのが本当について最近のことのように感じられます。今まで授業を教えてくれた先生方、本当にありがとうございます。

中3 S・P



ステパノの行事で一番印象に残っているのは、修学旅行です。みんなで広島のお好み焼きを焼いたり、お土産を買うときにレシートもらい忘れて焦ったりなど、楽しい思い出がたくさんできました。

中3 S・I

私は、中三で転入をしました。勉強や進学のことなど先生方が気にかけてくださり、本当に助かりました。一年間ありがとうございます。

中3 T・H



がんばります。

中3 T・T

九年間、今までありがとうございます。私はたくさんの先生方やクラスメイトや友達に支えられて、今の私があります。改めて先生方やクラスメイトに感謝しています。この気持ちを高校でも忘れずに過ごしていきたいと思います。

中3 H・R



私の一番の思い出は祝会です。三年間役者に選ばれて、三年生では主役もできてうれしかったですし、すてきな体験ができました。

中3 H・S



この三年間で思い出に残っていることは、運動会です。リレーでは小中全員でバトンをつないで、最後には全力で楽しく走れました。

中3 M・M

自分はこの三年間で班長や運動会の団長などの役割を経験し、より自分に自信が持てるようになりました。

先生方本当にありがとうございます。



中3 Y・T



今年もまた、節目の季節がやってまいりました。今年度のSAの活動を振り返り、SA代表よりご挨拶申し上げます。

100年以上にわたり遊泳が禁じられていたパリのセーヌ川。かつては下水の流入などで汚染されていましたが、約2,400億円を投じた「プラン・ベニヤード（泳げる化計画）」により、2025年に劇的な再生を果たしました。巨大な貯水池の建設や地道な排水設備の改修といった人間の英知と努力によって、今や30種類以上の魚が泳ぐ豊かな環境が戻っています。「不可能」と言われた自然再生を成し遂げ、かつての「当たり前」を自分たちの手で取り戻したこの歩みは、信念を持って尽力し続けることが必ず未来を変えろという、大きな希望の光を示してくれました。

このセーヌ川の再生が多くのの人々の献身によって成し遂げられたように、SAの活動もまた保護者の皆様の尊い「奉仕」の心によって支えられています。子ども達の健やかな成長を願い、お忙しい日々の中で捧げてくださった「理解とご協力」そして温

かいお声があつたからこそ、私たちは歩みを進めることができました。それは聖句にある「光」そのものであり、私たちを支える大きな力となりました。改めて深く御礼申し上げます。

聖書には「何事にも時がある」（コヘレトの言葉 3:1）とあります。今年度も残すところわずかなった今は、子ども達が次のステップへと希望を持って進むための大切な「実りの時」です。子ども達が一日一日を大切に歩めるよう、私たちSA役員も最後まで温かく寄り添い、見守ってまいります。

また、皆様のご協力により、次年度の役員も無事に決定いたしました。これまでの良き伝統を大切にしながら、次年度へと円滑にバトンをつないでまいります。皆様から託されたこの一年の「道のり」を、感謝をもって誠実に務めてまいりますので、最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、この春卒業を迎えられる皆さんが、新しい日々の中でも希望の光を信じ、力強く歩んでいかれることを心よりお祈りしております。

（卒業おめでとう）ございます。

【2025年度 SA代表】

代表者 校長 上戸 基夫
発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868
TEL 0463-611-1298
FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二六年三月十八日（水）発行第29号